



学校だより

令和7年9月30日

東京都立小平特別支援学校

校長 鈴木 愛

肢体不自由教育部門・病弱教育部門(病院訪問部) 〒187-0035 小平市小川西町 2-33-1 TEL 042-342-1671

病弱教育部門(センター病院内分教室部) 武蔵分教室 〒187-0031 小平市小川東町 4-1-1 国立精神・神経医療研究センター病院内
TEL 042-344-4537

とても暑かった夏から秋へと、ようやく季節の変化が感じられるようになりました。過ごしやすい季節が訪れたとはいえ、季節の変わり目には敏感な児童・生徒の皆さんが多いので、穏やかに秋を迎えられますようにと願っております。10月も学校生活を充実して過ごしてまいりましょう。

● 「東京2025世界陸上リアル教室」に遠隔操作で参加しました



病弱教育部門、武蔵分教室の教育活動を紹介いたします。9月17日、国立精神・神経医療研究センター病院内の武蔵分教室に在籍する児童が東京2025世界陸上のイベントに参加しました。国立競技場のトラックでOriHimeという分身ロボットを病院のベッドサイド等から遠隔操作してレースを行う「世界陸上リアル教室」という催しでした。都内の病院や施設などから4団体6チームが参加して、1レースでの競争です。武蔵分教室からは、小学部4年生の児童が選手として、担任の外岡先生と遠隔操作の練習をしたり、OriHimeが持つ旗のデザインを決めたり、レースに向けての準備をしてきました。当日、ベッドサイドでは、校長、副校長、病棟職員が操作をする児童を応援し、武蔵分教室では、国立競技場の映像中継をとおして、児童・生徒・教員が見守りました。児童本人は、タブレット端末を使用し、外部スイッチの入力操作により、国立競技場内の10mのコースにある障害物をくぐらせたり、回避したりしてOriHimeを走らせることができました。途中にあるリアクションポイントでは、数あるポーズから「なんでやねん」を選んでキメポーズしました。結果は、6人中、6位でしたが、最後まであきらめることなく、会場からの小学生の応援も聞きながら、ゴールテープを切り、完走しました。病院の協力もいただき、OriHimeを遠隔操作するという貴重な経験ができました。

● 「武蔵分教室小学部校外学習」がありました

9月18日、武蔵分教室長期在籍学級小学部校外学習ということで、小平特別支援学校本校内の探索を行いました。2南病棟グループ、6病棟グループのメンバーに分かれて図書室、アリーナ、校長室を探索し、小学部の学習グループの授業見学もさせてもらいました。図書室では、大型絵本に子供たちは驚いていました。アリーナでは、普段あまり経験のない圧倒的な広さを感じて、端から端まで車椅子で思いっきり動くことができ、とても楽しそうな表情をしていました。また、スイッチを押してボールを転がし、ペットボトルのピンを倒すという活動も行い、身体を動かすこともできました。校長室では、歴代の校長先生の写真を見たり、校長先生の席の前で集合写真を撮ったりして、楽しみました。授業見学では、教室で本校の同じ学年の友達と顔を合わせて挨拶をすることができ、とても喜んでいる表情でした。各部屋の探索ではスタンプラリーを行い、子供たちは3か所全てのスタンプを上手に押すことができ、満足そうにしていました。とても貴重な経験となりました。

● 「小平十三小との学校間交流」が行われました



9月18日、本校の小学部4年生と小平市立小平十三小学校4年生が学校間交流を行いました。活動内容は、図画工作コラボレーションとして、協同制作で「〇〇の木をつくろう」というテーマで「音楽グループ」「果物グループ」「夏の虫グループ」など全部で6グループに分かれ協同制作をしました。事前学習では、木の葉っぱやそれぞれのテーマに合わせた果物や生き物などのモチーフを作りました。準備をする間は「楽しみだなー!」「早く、会いたいな!」など交流をとても楽しみにしている姿も見られ、モチーフに丁寧に色を塗って、期待感を膨らませていました。交流当日は、お互いに緊張した表情からスタートしましたが、自己紹介が終わり、共に活動する中で表情が次第に明るくなり、作品作りを楽しんで行うようになりました。十三小の児童から「どっちの葉っぱをはりたい?」と聞かれて、自分から応えようとする姿や一緒にモチーフを貼り付けるなど、様々な関わり方をする中で有意義な交流となりました。この学年同士の交流は、来年度も続いていきます。



副校長 渡部早苗

肢体不自由教育部門 高等部の学習活動などの紹介

肢体不自由教育部門高等部は、1年生21名、2年生18名、3年生16名が在籍しています。生徒一人一人の個性と可能性を大切にしながら、自立と社会参加に向けて教育活動を行っています。

普段の学習は、生徒個々の実態に応じた学習グループに分かれて行っています。新しいことにも取り組みつつ、今もっている力を、しっかりと定着させることを目指して、各教科や生活に密着した内容、職業・進路に関する学習を行い、卒業に向けて必要な力を育てています。

進路指導について

高等部は社会に出ていく、出口の学部になります。そのため、社会に参画していくための力として、身の回りのことや身だしなみ、言葉遣い、マナーなどを卒業までではなく、在学中から意識して整えていく行く必要があります。

進路指導は、1年生から段階的に行っており、将来に向けた意識づけを進めています。1年生では、福祉施設などの見学を通じて、進路の選択肢に触れる機会を設けています。2・3年生では、実際の職場や施設での現場実習を行い、働くことや卒業後の活動の場を体験的に学びます。さらに12月には校内実習を実施し、作業活動を通じて「働くこと」への意識を高める取り組みも行っています。

進学や就職を目指す場合は、学力等はもちろん、身の回りのことや、周囲とのコミュニケーションがしっかりできることが大切になります。通学や通勤を考えると、家から一人通学ができることや、適切な支援を受けるために、自分の考えを伝えるとともに、相手の考えを理解し意見を調整する力が必要になります。福祉施設の利用でも、自分でできることは自分ですることや、自分の気持ちを自分なりの方法で伝えること、自分の好きなことを広げることが大切になってきます。

「やりたいこと」と「できること」は違います。夢を持つことはもちろん大切ですが、一方で現状や適性などの現実をしっかりと見定め、進路を考えられるよう指導を進めています。

卒業直後だけでなく、10年後、20年後に生徒自身や、保護者や家族はどうなっているのかを想定いただければと思います。介護はできるのか、収入はどうなるのかなどを予測し、どう準備していくのか考えられればと思います。社会も変化がより早く、大きくなってきており、予測が難しくなっては来ておりますが、そのような中でも、「これでないと」ではなく「これもいい」などの柔軟性をもつことができればと思います。

より良い進路となるよう学校と家庭、関係機関が連携して進めていきますので、御協力をお願いします。

行事について

高等部では全校での文化祭等の行事のほか、次のような行事を行っています。

・明治学院東村山高校との交流

本校から歩いて10分ほどの距離にある明治学院東村山高校の3年生が来校し、ポッチャなどで交流を深めました。ポッチャは両校の生徒の混成チームで対戦を行いました。他にもフリートークの時間も設定し、示されたテーマに沿って話をし、交流を深めました。会の進行は、本校の生徒会が中心となって行いました。

・校外学習

今年度は、津田塾大学、東大和ボウル、ところざわサクラタウン、所沢駅周辺施設などに学習グループごとに行っています。津田塾大学では大学生に大学構内を案内していただき、見学をしてきました。東大和ボウルではボウリングを、ところざわサクラタウンや所沢駅周辺では散策とショッピングなどをしてきました。社会経験を広げるとともに、公共のマナーなども意識して行動することができました。

・修学旅行

1泊2日で横浜方面に行きました。横浜ランドマークタワーとカップヌードルミュージアムを見学しています。ランドマークタワーでは横浜の街並みを一望し、港町横浜を感じることができました。カップヌードルミュージアムでは、カップの外側に絵をかき、具を自分で選んで入れた、世界に1つだけのカップヌードルを作ってきています。2日間を楽しく有意義に過ごし、たくさんの思い出を作ることができました。

高等部の3年間は、生徒自身が自分の可能性を信じ、未来に向かって力強く歩み出すための大切な時間と考えております。これからも保護者や地域や関係機関と連携し、生徒の成長を見守り、支えてまいります。